

## 解答

問一 「わらい」や「なき」を表現する言葉や文字について、数千年前の中国人は想像を越えるほどくわしく観察、分類し、表現しようとしていた。それに比べて現代人である「ぼく」たちは、あて字のたぐいである「笑う」や「泣く」ですべてをまかなおうとしており、少なくとも言葉による観察・描写に関しては退歩しているから。

問二 苦笑・笑顔・失笑

問三 リズミカルな呼吸運動を基本にしているところ。  
顔をしわくちやにする表情運動であるところ。  
まわりの人間の攻撃性をおさえるところ。

問四 「泣」という当用漢字に限定することで漢字によるなき方の描写を不可能にするだけでなく、「泣く」は本来「涙は出るが声は出さぬ」なき方であるのに、現代人は「大声をあげて」と「泣く」という矛盾した表現を平気で使ってしまったから。

問五 「オギャーなき」は本来「なく」ことではなく、悲しいという感情のともなわない涙ぬぎの大人に伝えるための信号となる赤ん坊のものであり、「ウェーンなき」は涙や悲しいという感情をともない、まわりの攻撃性をおさえるはたらきをする子どものものである。

問六 涙は一見、他者に向けての視覚的な信号のように思われるが、実は自分に向けられていて、感情を鎮静させる作用を持ち、苦痛をやわらげ、静め、さらに苦痛を快感にさえ変化させるものであるということ。

問七 低級 修正 典型的 簡潔 無防備 次第

## 解説

出典は、なだいなだ「わが輩は犬のごときものである」。

問一 筆者はこの文章の冒頭で、人間が進歩ばかりしているのではなく、確実に退歩もしていると主張しています。それを説明するために漢字の使い方について、数千年前の中国人と比較して、いかに現代人がいい加減かを自嘲的に述べています。「笑う」という漢字を例にあげ、数千年前の中国人が「笑い」を想像を越えるほどくわしく観察し分類し、書き分けていたのに、現代の大学生では一つ二つしか書けないだろうと具体例をあげて説明しています。

問二 「笑」を使った二字熟語を書かせる語彙力を試す問題です。「笑顔」「笑声」「笑止」「失笑」「苦笑」「談笑」「冷笑」「爆笑」「一笑」などがあります。

問三 文中に「二つの対象物がある時、とかくその『ちがひ』を見ようとして『似かより』を見ずごす。」とあり、筆者はここで「笑い」と「なき」の似ているところを探しています。「リズムカルな呼吸運動を基本にしているところ」、「顔をしわくちやにする表情運動であるところ」、「まわりの人間の攻撃性をおさえるところ」の三つを傍線部と同じ段落から読み取ります。

問四 当用漢字で「大声をあげて泣く」と書くように「強制する」のが、なぜ「言語道断、天道遮断、めちやくちや」なのかを考えます。それは「泣く」が本来「涙は出るが声は出さない」泣きかたであるのに、「大声をあげて」と結びつけたためにおこる矛盾です。つまり当用漢字が誤用を強制するのが、言語道断だと嘆いているのです。

問五 「オギャーなき」については、悲しいという感情をともなわないこと、涙をともなわないこと、大人に伝えるための信号であること、赤ん坊のものであること、本来の「なき」とはちがうことを読み取ります。「ウェーンなき」は悲しい感情と涙をともなうこと、まわりの攻撃性をおさえることであることを読み取ります。

問六 「くせもの」とは、「表面には現れていない何かがありそうで油断できないもの」という意味です。ふつう、涙は他者に向けての視覚的なアピール（信号）だと思われれますが、精神科医である筆者は、この涙は他者に向けられたものではなく、自分に向けられたものであると分析しています。その作用・効果は自分の感情を鎮静させ、苦痛を和らげ静め、さらに快感にさえ変化させると説明しています。